

故 渡邊 昭美会員を偲んで

あまりにも突然の死に面して、戸惑いや信じられない気持ちで一杯です。

去る6月2日に、突然倒れ、歩道で後頭部を打ち、3日深夜にあっけなく他界いたしました。

彼は全くの文化人で、絵画、絵手紙、俳句、味わいや伝統を楽しむ料理、日本酒の卓越した知識と舌をもちあわせていました。

プロバスクラブ京都では社会活動委員会委員長として活躍し、俳句同好会では代表世話人として、会に俳句ブームを起こさせました。

会の行事には積極的に参加して楽しみ、又まわりからも雰囲気をやわらげる、付き合っただけで気楽な気分にする男でした。

絵画は日本画の水彩画を楽しみ、スケッチブックを持参してはあちこちでスケッチした姿が思い出されます。

私達はよく食べにいき、お酒を飲み、旅行しました仲良し四人組のひとりでした。

又、こよなくプロバスクラブを愛し、こんないいクラブはない。近い将来はプロバスクラブ京都を背負って、より良いクラブにしたいと、熱く語り、来期の会計をまかされたことに張り切っていた矢先の出来事でした。

遺族の悲しみはもちろんの事ですが、クラブとしてもいい人材をなくした衝撃はたいへん大きな出来事でした。

我々クラブで残ったものは、彼の遺志を継いで、よりよきクラブ、楽しいクラブにしていこうではありませんか。

今は静かに彼の冥福を祈っています。

プロバスクラブ京都

幹事 藤岡 昭(大親友)